

学校関係者評価委員会資料

1 本年度の重点目標

今年度重点目標と学校評価結果の関係

- 主体的に学び、自己の考えを表現する授業づくり

学ぶ意欲を引き出す授業 (生徒) 66% (前年度比+6%, 以下同じ)

- 学習評価研究・基礎学力の向上

シラバスの活用 (生徒) 59% (+7%)

- 自主的な部活動・生徒会活動・学校行事

有意義な学校行事 (生徒) 77% (+4%)

- 「心の居場所」としての学校づくり

教員・カウンセラーの相談体制 (保護者) 85% (+7%)

いじめの早期発見への取り組み (生徒) 63% (+4%)

- 国際理解教育, 防災交流活動

国際理解教育を通した異文化理解 (保護者) 80% (+3%)

国際理解教育を通した異文化理解 (生徒) 75% (±0%)

- 情報発信・情報共有

学校情報の適切な伝達 (保護者) 85% (-3%)

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

【総務関係：保護者】

- Q 1 学校として地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる
- Q 2 お子様の学校生活は充実している
- Q 3 保護者に対して、災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている
- Q 4 保護者に対して、学校便りなどによって、学校の情報は適切に伝えられている
- Q 5 本校のメール配信は役に立っている
- Q 6 P T A活動は活発に行われている

【総務関係：生徒】

- Q 1 学校として、地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる
- Q 2 自分にとって、学校生活は充実している
- Q 3 生徒に対して、災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている
- Q 4 保護者に対して、学校便りなどによって、学校の情報は適切に伝えられている
- Q 5 本校のメール配信は役に立っている

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
総務関係	① 特色ある学校づくりについて 保護者 83 生徒 62 職員 88	B	回答1・2の割合は、保護者[83%],生徒[62%],職員[88%]で保護者の割合が昨年と比較すると増加傾向、生徒の割合が低い。今年度も被災地で行われる高校生による第3回国際フォーラムを実施した。国際フォーラムは今年度で終了となるので、次年度は国際理解、防災教育を柱とした教育活動について検討が必要である。	A	A
	② 学校生活の充実について 保護者 91 生徒 84 職員 95	A	回答1・2の割合は、保護者[91%],生徒[84%],職員[95%]であった。評価としては増加傾向で良好な評価をいただいているが、なお、生徒が活躍できる環境づくりを目指す。	A	A
	③ 災害・非常時の対応について 保護者 85 生徒 84 職員 95	A	回答1・2の割合は、保護者[85%],生徒[84%],職員[95%]であった。西翔暦・防災体験学習が果たす役割が大きいと考えられる。	A	A
	④ 学校情報の伝達について 保護者 85 生徒 85 職員 98	A	回答1・2の割合は、保護者[85%],生徒[85%],職員[98%]であった。昨年と比較すると若干数値が下がったものの良好な状況と思われる。今後も石巻西高実況中継やHP等で学校の情報を伝えていく。	A	A
	⑤ メール配信について 保護者 87 生徒 65 職員 98	B	回答1・2の割合は、保護者[87%],生徒[65%],職員[98%]で、生徒の割合が低い。なるべく早く情報は伝えたいと考えるが、台風等の自然災害に対しては即断即決できるものではないこと、そのような状況下で個々人が心掛けておくべきことを生徒に考えさせ、備えさせる。	A	A
	⑥ P T A活動の活発化について 保護者 82 生徒 84 職員 84	A	回答1・2の割合は、保護者[82%],職員[84%]であった。PTA役員を中心とした会員(保護者)の方々のご協力のおかげである。今後も学校と家庭との間で近い関係を築いていく。	A	A
学校関係者評価者による意見	特になし				

【学習指導：保護者】

- Q7 お子様の学ぶ意欲を引き出し、学力を身に付けられるような授業が行われている
- Q8 外部講師の講演や他国の人々との交流などの国際理解教育を通して、異文化理解が深まっている
- Q9 科目選択や学習の取り組み、評価規定の確認に関して、シラバス（学習の手引き）が活用されている
- Q10 本校の教育課程や選択科目はお子さんの進路に適している

【学習指導：生徒】

- Q6 生徒にとって、学ぶ意欲を引き出し、学力を身に付けられるような授業が行われている
- Q7 外部講師の講演や他国の人々との交流などの国際理解教育を通して、異文化理解が深まっている
- Q8 科目選択や学習の取り組み、評価規定の確認に関して、シラバス（学習の手引き）が活用されている
- Q9 本校の教育課程や選択科目は自分の進路に適している

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価							
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ						
学習指導	① 学ぶ意欲を引き出す授業について <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"><tr><td>保護者</td><td>生徒</td><td>職員</td></tr><tr><td>79</td><td>66</td><td>93</td></tr></table>	保護者	生徒	職員	79	66	93	A	昨年度に比べて、保護者データ(76%→79%),生徒データ(60%→66%),職員データ(88%→93%)ともに向上している。本校のいわゆるアクティブラーニングやICTに対する職員の意識はとて高く、その積み重ねが実践に結びつつあると考えられる。このデータに慢心せず、次年度も改良・改善を続けていきたい。 授業理解については、「みやぎ学力状況調査」の結果から、昨年度に比べて、1年生は向上しているが、2年生については低下した。現2年生は1年次にも同様の傾向を見せており、各教科で検討を頂き、対策を実行して頂いている。また、学習時間に関しては向上が見られるので、この流れを次年度につなげていきたい。	A	A
	保護者	生徒	職員								
	79	66	93								
	② 国際理解教育について <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"><tr><td>保護者</td><td>生徒</td><td>職員</td></tr><tr><td>80</td><td>75</td><td>84</td></tr></table>	保護者	生徒	職員	80	75	84	A	総合的な学習に関する委員会が中心となって進めている。国際理解教育についての理解度は昨年度と比較して、保護者データ(76%→80%),生徒データ(75%→75%)と高い割合で推移している。次年度から「高校生フォーラム」が実施されないため、その後継事業を如何にするかが、課題となっている。	A	A
保護者	生徒	職員									
80	75	84									
③ シラバスの活用について <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"><tr><td>保護者</td><td>生徒</td><td>職員</td></tr><tr><td>80</td><td>59</td><td>77</td></tr></table>	保護者	生徒	職員	80	59	77	B	シラバスについては、科目選択や学習の取り組みに活用されている。今年度はシラバスの内容精選と科目選択説明会、考査対策での活用を訴えた。その結果、生徒データが52%が59%と向上し、保護者データでも75%から80%と向上している。今後もより一層活用されるように研究していきたい。	A	A	
保護者	生徒	職員									
80	59	77									
④ 教育課程・選択科目について <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"><tr><td>保護者</td><td>生徒</td><td>職員</td></tr><tr><td>84</td><td>80</td><td>95</td></tr></table>	保護者	生徒	職員	84	80	95	B	教育課程や選択科目については、保護者データ(80%→84%),生徒データ(76%→80%)ともに向上している。この数字から現行の教育課程・選択科目は概ね生徒の進路状況に適している状態と考えられる。 課題としては、2022年度の新入生から段階的に実施される新学習指導要領についての研究を始めたいと思う。	A	A	
保護者	生徒	職員									
84	80	95									
学校関係者評価者による意見	特になし										

【進路指導：保護者】

- Q11 お子様の進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている
- Q12 「総合的な学習の時間」などにおいて、将来へ向けての進路研究が適切に行われている
- Q13 課外講習は、生徒の進路希望実現のために役立っている
- Q14 進路に関する情報提供が適切に行われている

【進路指導：生徒】

- Q10 生徒にとって、進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている
- Q11 「総合的な学習の時間」などにおいて、将来へ向けての進路研究が適切に行われている
- Q12 課外講習は、進路希望実現のために役立っている
- Q13 「進路の手引」は、役に立っている
- Q14 各種進路行事（進路講演会・進路ガイダンス・オースタムセミナー等）は進路決定の役に立っている
- Q15 進路に関する情報提供が適切に行われている

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
進路指導	① 進路目標の明確化について 保護者 生徒 職員 82 73 88	B	生徒からは7割、保護者からは8割を超える肯定的評価をいただいた。次年度も、より自発的な活動を通し、生徒の主体性を育成するような機会を設けたい。	A	A
	② 進路研究の適切さについて 保護者 生徒 職員 79 73 91	B	進路ガイダンス等、予定通り実施した。次年度は総合の時間に組み込み、さらに充実したものにしていきたい。	A	A
	③ 課外講習について 保護者 生徒 職員 79 71 86	B	3年生平常課外の受講者については途中離脱者が少なくよかったが、学年によっては欠席者が多い場合もあった。次年度にむけ、反省をいかし、内容の充実をはかっていきたい。	A	A
	④ 「進路の手引き」の活用について 保護者 生徒 職員 60 70	C	手引きを見ながら進路ガイダンスを実施するなど、利用を促す取り組みを行ったが、継続的な利用にまではいたらなかった。次年度も活用に向けた声かけを行っていきたい。	A	A
	⑤ 進路行事について 保護者 生徒 職員 74 95	B	進路志望に合わせた行事(看護医療系ガイダンス等)に対し、生徒の参加が非常に積極的であった。全員対象の進路指導はのみならず、希望別のもも設定し対応していきたい。	A	A
	⑥ 進路に関する情報提供の適切さについて 保護者 生徒 職員 71 75 88	B	進路相談室の積極的活用を呼びかけ、生徒のニーズにあった環境整備と情報提供を今後も行っていきたい。	A	A
学校関係者評価者による意見	特になし				

【生徒指導：保護者】

- Q15 生徒に対して、挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている
- Q16 学校として、いじめの問題に対する取組方針が保護者と共有されている
- Q17 学校として、部活動は活発に行われている
- Q18 学校として、生徒会活動は活発に行われている
- Q19 お子様にとって、有意義な学校行事がある
- Q20 交通ルール遵守の指導が行われている
- Q21 生活指導に関する情報（懲戒規程・普通自動車免許取得・各種講演会開催・長期休業中の心得など）が提供されている

【生徒指導：生徒】

- Q16 生徒にとって、挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている
- Q17 学校として、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる
- Q18 学校として、部活動は活発に行われている
- Q19 学校として、生徒会活動は活発に行われている
- Q20 自分にとって、有意義な学校行事がある
- Q21 交通ルール遵守の指導が行われている
- Q22 毎朝の週番集会は機能している

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
生徒指導	① 基本的な生活習慣の確立について 保護者 生徒 職員 82 80 91	B	全生徒が挨拶、身だしなみ等がきちんとしているとは言いかねない。継続して、意識の変容を期して粘り強く全職員で指導していく。	A	A
	② いじめ問題に対する早期発見と取り組みについて 保護者 生徒 職員 65 63 100	A	いじめが起きない雰囲気作りと、早期発見・早期対応に努めていく。	A	A
	③ 部活動の活発化について 保護者 生徒 職員 81 85 93	B	主体性が身につく指導を心がける。	A	A
	④ 生徒会活動の活発化について 保護者 生徒 職員 88 66 86	A	地味ではあるが、主体性が身についてきている。もっと、積極性を身につけさせる。	A	A
	⑤ 学校行事について 保護者 生徒 職員 85 77 98	A	各委員会が主体的に活動できるようになっている。継続させるとともに、質の向上を期す。	A	A
	⑥ 交通ルール遵守の指導について 保護者 生徒 職員 82 69 86	B	交通ルール・マナーについてのアンケートを実施しそれを基に具体的方策を考えたい。	A	A
	⑦ 生活指導に関する情報提供について 保護者 生徒 職員 81 100	A	確実に伝わるように工夫する。(メール配信) また生徒手帳の活用を促す。	A	A
	⑧ 週番集会について 保護者 生徒 職員 76	A	生徒だけでの週番集会が定着してきた。	A	A
学校関係者評価者による意見	特になし				

【保健厚生関係：保護者】

- Q22 学校として、生徒のケガや病気に適切に対応し、健康の保持増進を図っている
- Q23 生徒に対して、教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている
- Q24 ゴミの分別処理・ゴミ拾いなどの校舎内外の清掃や環境美化の指導に取り組んでいる
- Q25 「健康・安全」の意識を高めるために、「保健だより」や各種「検診」などの諸統計を定期的に発行している

【保健厚生関係：生徒】

- Q23 学校として、生徒のケガや病気に適切に対応し、健康の保持増進を図っている
- Q24 生徒にとって、教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている
- Q25 ゴミの分別処理・ゴミ拾いなどの校舎内外の清掃や環境美化の指導に取り組んでいる
- Q26 「健康・安全」の意識を高めるために、「保健だより」や各種「検診」などの諸統計を定期的に発行している

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
保健厚生	① 健康の保持増進について <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 保護者 生徒 職員 85 78 100 </div>	A	体調不良やケガへの対応を行い、受診の勧告をした。情報提示の仕方も工夫した。心身についての相談活動を行い、教員間での情報共有を図った。健康上の課題を焦点化し、生徒の自己管理能力向上を図る。	A	A
	② 教育相談について <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 保護者 生徒 職員 85 74 100 </div>	B	生徒に加え保護者もSCにつなげ、支援を進めてたが、生徒・保護者とも潜在的需要はあると思われる。▼SCと教員や教員間の連携をさらに深める。生徒・保護者の相談体制への認識を改善させ、利用を広める。	A	A
	③ 環境美化について <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 保護者 生徒 職員 84 78 88 </div>	B	委員会活動や学年との連携により、環境美化についての啓発と実践を行った。清掃用具の管理や実施上の留意点など生徒に理解させ、実践者としての意識を高める。	A	A
	④ 「健康・安全」の意識向上のための取り組みについて <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 保護者 生徒 職員 89 87 100 </div>	A	保健だよりや受診勧告を通じて、生徒と保護者の意識向上を図った。委員会活動なども活用して、意識向上を目指した働きかけを行った。健康上の課題を焦点化し、各種疾病に関する情報提供を効果的に行う。	A	A
学校関係者評価者による意見	特になし				

【図書関係：保護者】

Q26 「朝の読書」や「図書委員会便り」等で、読書に親しむ意識を高めている。

【図書関係：生徒】

Q27 「朝の読書」や「図書委員会便り」等で、読書に親しむ意識を高めている。

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
図書関係	① 読書指導について 保護者 88 生徒 75 職員 98	A	回答1・2の割合は、保護者[88%]、生徒[75%]、職員[98%]であった。多くの生徒が朝読書で読書への親しみを感じていることを裏付けているが、クラスによって取り組みの悪さが見受けられる。限られた短い時間だけに、しっかりとした指導を行う。また、図書関係情報伝達、行事を実施し、更に意識を高められる工夫をする。	A	A
学校関係者評価者による意見	特になし				

【事務関係：保護者】

Q27 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている

【事務関係：生徒】

Q28 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
事務関係	① 施設・設備の整備について 保護者 83 生徒 74 職員 93	B	施設・設備の修繕については学校予算で対応できるものは早期に対応できました。また、グラウンド整備も一部(野球、サッカー)行いました。今年度はトイレの改修工事や道路の拡幅工事など、断水や停電を伴うことが多く、業者と連絡調整を図り出来るだけ活動に支障の無いよう努めました。今後とも計画的に整備を進めてまいりたいと思います。ご協力よろしくお願いたします。	A	A
学校関係者評価者による意見	特になし				

3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
① 進路の手引きについて	今年度も生徒に対しての達成度は低い水準であるが、今年度はここ3年では一番高い水準でようやく6割を越えた。内容を一部改訂したことや計画的に活用しやすい環境を整えてきたことで、徐々に浸透してきたと考える。しかし、他の数値と比較するとまだ低い水準であることは否めない。今後も継続的に現在の取り組みを広げていく。
② いじめ問題の取り組みについて	例年、5割程度で水位してる状況であったが、今年度は生徒、保護者ともに6割を越える結果となった。普段の生徒観察、生活実態調査等の取り組みを生徒、保護者が徐々に感じられるものになってきたと考える。上昇傾向ではあるもののまだ低い水準ではあるという認識のもと、今後も緊張感をもって対応していく必要がある。
③ メール配信について	今年度メールに関して例年並みの配信数であったが、生徒に関しては7割から6割台下がる結果となった。休校等緊急時の情報の配信を早く望む声が見受けられ、メール配信に頼る傾向が窺える。緊急時における家庭や自分での判断、メール配信の限界等を生徒、保護者に周知していく必要がある。